

# エッジコーティックスCEO「日本発、高電力効率AI半導体で世界主導」— Leader's Voice

2025/07/14 05:00 日本経済新聞電子版 999文字

日本の半導体スタートアップ、エッジコーティックス（東京・中央）が米国防総省との取引を決め、業界の注目を集めている。米マイクロソフトや理化学研究所出身のサキャシガ・ダスグプタ最高経営責任者（CEO）は「電力効率が高い人工知能（AI）半導体インフラでグローバルリーダーを目指す」と話す。

——国防総省の国防イノベーションユニット（DIU）から契約を獲得しました。

「世界の半導体企業で初めてであり興奮している。国防総省が我々のチップやソフトウェアを評価し、近く供給が始まる。通常、防衛向けの契約は時間がかかるが、DIUに重要技術と認定されれば供給までの期間が短縮される」

——米国の防衛関連に日本の技術が選定されるのは珍しいのでは。

「日本と米国の協力関係のおかげだ。宇宙や防衛など資源が限られる環境を想定し、米エヌビディアより消費電力の小さい我が社のAI技術が評価された。例えば月探査用の着陸機に搭載してAIで誘導することに使われるだろう。防衛ではドローンや無人車両向けだ」

——なぜ日本に会社を設立したのですか。

「2019年に会社を立ち上げた当時、AI半導体が重要になっていくと感じていたが、日本は米中ほど研究が進んでいなかった。それがチャンスに思えた。エッジコーティックスを設立した直後から日本政府も台湾積体回路製造（TSMC）の誘致やAIインフラの強化を重要視し始め、追い風となっている」

「もともと学生時代に（ソニーの）ウォークマンを使っていたが、日本にはイノベーションの素晴らしい精神があり、イノベーションにゴールはないということを私は実感していた。日本に拠点を持つ我々が、電力効率の高いAIインフラのグローバルリーダーになりたい」

——日本の半導体企業の状況をどう評価していますか。

「（最先端半導体の国産化を目指す）ラピダスは素晴らしいアイデアだが、同社にチップ生産を委託するパートナー企業が国内に必要な。一緒に育成する必要がある、そうした動きも出てきた。日本の企業や投資家はこれまでリスクを取りたがらなかったが、最近は先端技術への姿勢が変わってきた」

（聞き手は向野峻）

Sakyasingha Dasgupta ドイツのマックスプランク研究所で複雑系物理学の博士号、英工ディンバラ大学でAIの修士号を取得。米マイクロソフトや米IBMリサーチのほか、理化学研究所で勤務した。世界で20以上の特許を持つ。



エッジコーティックスのサキャシガ・ダスグプタCEO（5月、千葉市）

許諾番号30104587 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.